

CASBEE-建築(新築)2016年版
京都府長岡京市六ノ坪物流PJ新築工事

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境					0.30		-	3.3
1 音環境				3.0	0.15		-	3.0
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		-		3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能		-		3.0	0.60	1.0	-	
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		-		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				3.0	0.35		-	3.0
2.1 室温制御		-		3.0	0.50		-	
1 室温		-		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		-		3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用		-		3.0	0.30		-	
1 昼光率		-		3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		事務所エリアに南、東の両面に窓を設置している。			-	3.0	-	
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		-		3.0	0.30		-	
1 昼光制御		-		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		-		3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				4.2	0.25		-	4.2
4.1 発生源対策		-		5.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆材料を採用し、VOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用している		5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		-		3.0	0.30		-	
1 換気量		-		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		-		3.0	0.33	1.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		-		4.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		-		3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		建物全体は禁煙となっている。		5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能				-	0.30		-	3.7
1 機能性				3.7	0.40		-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ		-		3.3	0.40		-	
1 広さ・収納性		-		3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	0.33	2.0	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー法対象外であるが、身障者用トイレと車いす使用者用のスロープを設けている。		4.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性		-		4.0	0.30		-	
1 広さ感・景観		事務室の天井高は2.7mとなっている。		4.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		2階に休憩スペース(92.10㎡)を設けた		5.0	0.33		-	
3 内装計画		-		3.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理		-		4.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		外部に露出する金属部材にメッキ処理等を行っている		5.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		-		3.2	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ビニルクロス貼		5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-		3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		-		2.6	0.20		-	
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		-		2.0	0.20		-	
3 電気設備		-		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		-		2.0	0.20		-	

3	対応性・更新性		4.6	0.30	-	-	4.6
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	3～5階の階高を7.0mとした。	5.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	倉庫のため、フレキシブルな空間とした	5.0	0.40	1.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	事務所、倉庫、トラックバースの3エリアについて積載荷重を設定	5.0	0.30	2.0	-	
	3.3 設備の更新性		4.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	主要設備機器の更新に対応したルートを確認している	5.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースを確保している	4.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		—	0.40	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出	—	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	—	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	—	2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		—	-	-	-	3.7
LR1	エネルギー		—	0.40	-	-	4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPIm:0.88	4.2	0.20	-	-	4.2
2	自然エネルギー利用	休憩室は2方向以上への開口を設けている	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化	BEIm:0.65	4.5	0.50	-	-	4.5
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		—	-	-	-	
	4.1 モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		—	0.30	-	-	3.7
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	節水コマに加えて、省水型機器を用いている	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.9	0.60	-	-	3.9
	2.1 材料使用量の削減	F=365の鉄骨を使用している	4.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	エコマーク商品を床に使用	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.8	0.20	-	-	3.8
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	シート用接着剤、防水工事のプライマー、躯体、塗床材	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.3	0.70	-	-	
	1 消火剤	—	1.0	0.33	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用している	5.0	0.33	-	-	
	3 冷媒	自然冷媒を使用	4.0	0.33	-	-	
LR3	敷地外環境		—	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率が、参照値に対して84%	3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器不使用	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	—	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	十分な駐車台数、駐輪台数を確保	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	不燃、可燃物の分別を行う	5.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		2.7	0.33	-	-	2.7
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2 振動	—	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	—	3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		1.9	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	1.0	0.70	-	-	
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	型板ガラスの使用により光を乱反射させ拡散性を高めた	4.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

京都府長岡京市六ノ坪物流PJ新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0	-	○	○	○	○	-	○	○	○	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	-	-	-	○	○	-	-	○	-	○	○	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	5.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m ² K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC
屋光率	1.5%	床	η AH
自然換気有効開口面積率	3.3%		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	6.0m ² /人	病床	8.0m ² /床	シングル	15.0m ² ツイン	22.0m ²
コンセント容量	30.0 VA/m ²					
天井高	2.7 m					
リフレッシュスペース	109.4%	レストスペース	%			
想定耐用年数	30 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	5.6 m					
壁長さ比率	8.4%					
床荷重	2900, 14 N/m ²					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

外構緑化指数	13%	建物緑化指数	6%
空地率	48%	水平投影面積率	2%
		地表面対策面積率	7%
		舗装面積率	46%
BPI/BPI _m	0.88	断熱等性能等級	等級3 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
BPI/BPI _m	非住宅 0.65	住宅	-
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%					
特定調達品目	-	エコマーク商品	フロアリュウム	自治体指定の特定品目等	-	
使用比率	5.0%					
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1			
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	8			

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	84%	隣棟間隔指標Rw	0.64
地表面対策面積率	10.0%	屋根面対策面積率	5.0%
		外壁面対策面積率	#DIV/0!
見付面積Sb	1,804m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	114.22 m
緑地	386m ²	水面	m ²
		保水性対策面	m ²
		高反射対策面	m ²
		再帰性反射対策面	m ²